

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	文化財保護事業				担当課名	産業振興課	
(予算書コード)	07-01-07-10-01				担当係名	文化遺産活用係	
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国指定天然記念物「八島ヶ原高層湿原」はじめ、国・県・町指定文化財や国登録文化財を適切に保存・管理し、良好な状態で次世代へ継承するとともに、積極的な情報発信を通じて、町民が文化財に親しみ、理解を深める機会を充実させる。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	指定文化財・登録文化財の件数	指定・登録により保存を図っている、指定・登録文化財の件数をカウント	件	目 標	65	66	67
				実 績	65	67	
				達成率	100.0%	101.5%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	4,041 千円		5,689 千円		4,320 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.50 人	3,284 千円	0.50 人	3,389 千円
事業費合計 C (A+B)		7,349 千円		8,973 千円		7,709 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	850 千円	950 千円	950 千円	950 千円	950 千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		6,499 千円		8,023 千円		6,759 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 文化財保護法において、文化財の保存が適切に行われるよう、地方公共団体が努めなければならないとされている。
公平性	A	適切である 指定文化財の所有者は、自らが文化財の管理をしているため、相応の費用を負担しており、その公開・活用にも協力をいただいている。
効率性	A	適切である 県の文化財パトロール、町の文化財現況調査等を通じて、定期的に文化財の現状を把握し、修繕等必要な場合は早期に保護措置を図っている。
達成度	A	目標値以上である 令和3年度から準備してきた国登録有形文化財1件(下駄スケート)の登録、令和4年度新規の長野県宝の指定1件(本陣)があり目標値を上回った。

総合評価	現状維持	文化財保護法の趣旨に基づき、文化財の適切な保存・管理に努めることを継続していく。国登録文化財の下駄スケートは、令和5年度に博物館の常設展示を拡充し活用を図っていく。長野県宝の本陣については所有者や長野県と連携をして、保存・活用について検討を進めていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の活動				担当課名	産業振興課		
(予算書コード)	07-01-06-12-01-14-01				担当係名	文化遺産活用係		
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託				
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)							
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例							

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域博物館として、地域住民が地域への理解を深め、地域を自慢に思う心を育み、地域の歴史文化を探究する場として、展示や講座などの事業展開を図る。あわせて、下諏訪町を訪れる観光客の皆様にもこの地域の魅力を伝え、歴史文化を体感していただくような文化観光に繋げていく。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	5,000	5,000	4,200
				実 績	2,958	4,613	
				達成率	59.2%	92.3%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	626 千円		927 千円		2,717 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.50 人	3,284 千円	0.50 人	3,389 千円
事業費合計 C (A+B)		3,934 千円		4,211 千円		6,106 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円		
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円			
一般財源 (町の負担)		3,934 千円		4,211 千円		6,106 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である
達成度	C	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値以下である

総合評価	拡 充	令和4年度は活力のある博物館を目指して企画展に取り組み、良い成果が上がった。さらに多くの方に来館してもらえよう、質の高い企画展を開催するとともに、展示図録の発行、ミュージアムグッズの開発などにも取り組み、多くの方に喜んでいただける博物館づくりを目指す。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	令和4年度は地域を探究する博物館として企画展に取り組み良い成果が上がっている。令和5年度は取組みをさらに拡充し活力のある博物館づくりに取り組む。

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館資料の保存整理	担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-06-16-01	担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例、文化財保護法、町文化財保護条例		

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	地域に残され、伝えられてきた貴重な文化遺産を広く収集し、整理保存することで、次世代へ引き継いでいくとともに、展示や事業等で活用できるよう、調査研究を通じて史料価値を高めていく。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位	目 標	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	資料整理数	資料カードを起票した数	枚	実績	1,000	1,200	1,000
				達成率	139.8%	56.7%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	65 千円		66 千円		66 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	1.00 人	1,745 千円	1.00 人	2,103 千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.25 人	1,642 千円	0.25 人	1,695 千円
事業費合計 C (A+B)		3,373 千円		1,708 千円		1,761 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	
		県の負担	千円	千円	千円	千円	
		町の借入	千円	千円	千円	千円	
		その他	千円	千円	千円	千円	
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		3,373 千円		1,708 千円		1,761 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 博物館法の趣旨に沿って行うものであり、専門知識を有する職員が実施する必要がある
公平性	A	適切である 収集した資料は、整理保存、調査研究を通じて、学校教育や住民の学習、研究者の研究活動等に役だてられている。
効率性	A	適切である 専門的知識、技術を持つ職員が適切な方法で、費用を抑えながら効率的に資料化している。
達成度	C	目標値以下である 下駄スケートの整理、調査研究に力を注ぎ時間をかけたため、資料カードの枚数は伸びなかったが、130点の下駄スケート資料が「諏訪の下駄スケートコレクション」として国登録有形民俗文化財に登録され、大きな成果となった。

総合評価	現状維持	令和4年度は下駄スケートに集中する形で整理、調査研究を行い、国登録有形文化財の登録にこぎつけた。今後も、資料を選択して集中的に整理、調査研究を行い、資料の価値を高め、より良く保存し、より良く活用できるよう取り組んでいく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	博物館の維持管理				担当課名	産業振興課	
(予算書コード)	07-01-06-10-01				担当係名	文化遺産活用係	
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年	月	～	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)	
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	博物館は、資料の収集・保管・展示をする施設であることから、適切な環境下での資料保存が求められているとともに、地域の歴史文化の学習拠点でもあるため、利用者にとっての快適な環境づくりのため施設全体の適切な維持管理を行う。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位	目 標	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		維持管理に係る経費であることから指標設定は困難		実 績			/
				達成率			/

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	15,149 千円		9,756 千円		10,165 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.50 人	3,308 千円	0.25 人	1,642 千円	0.25 人	1,695 千円
事業費合計 C (A+B)		18,457 千円		11,398 千円		11,860 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
	うち 使用料・手数料 D	720 千円	1,254 千円	1,338 千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		18,457 千円	11,398 千円	11,860 千円	11,860 千円	11,860 千円	千円
受益者負担率 (D/C)		3.901 %		11.002 %		11.282 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 地域の文化遺産を収集・保存・展示する施設であること、また、博物館法に基づく登録博物館であることから、直営による運営は必須である。
公平性	A	適切である 社会教育法に基づき、博物館法及び町博物館条例に則して、公平かつ適正な維持管理に努めている。
効率性	B	検討の余地がある 竣工から30年が経過し、空調設備を中心に経年劣化が顕著となっており、施設全体の効率的な改修を検討する必要がある。また、省エネやバリアフリー等現在求められる建築様式への適応も検討課題である。
達成度	B	施設の日常的な維持管理であり、目標値の設定が困難であるため、指標設定はなじまない。

総合評価	現状維持	当面は不具合箇所の早期改善に努めるとともに、今後の改修に向けて優先順位等を検討していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	宿場街道資料館の維持管理				担当課名	産業振興課		
(予算書コード)	07-01-06-18-01				担当係名	文化遺産活用係		
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託				
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)			
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例							

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	明治初頭に建築された歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、宿場や街道の歴史文化を学ぶ施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	11,000	11,000	11,000
				実 績	11,319	11,249	
達成率	102.9%	102.3%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	2,712 千円		1,401 千円		1,125 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	1.00 人	2,024 千円	1.00 人	2,120 千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		4,366 千円		2,715 千円		2,481 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		4,366 千円		2,715 千円		2,481 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか	B 町以外では行えない	地域における歴史文化の学習拠点として、また文化遺産を活かしたまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	社会教育法の精神に基き、博物館法及び博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は利用促進の観点から無料としている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	不具合箇所については早期の修繕を図り、歴史的建造物を適切に維持している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	B 目標値どおりである	コロナ禍ではあったが夏から秋を中心に多くの来館者があり目標値どおりとなった。令和4年度は2階にエアコンを設置し快適な環境となったため、入館者に喜ばれている。

総合評価	現状維持	コロナ後の人流の活発化を見据えて、良好な観覧環境を維持しながら大勢の方に喜ばれる施設運営を図っていく。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	伏見屋邸の維持管理				担当課名	産業振興課	
(予算書コード)	07-01-06-22-01				担当係名	文化遺産活用係	
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)						
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国登録有形文化財の歴史的建造物を適切に維持、保存し、良好な状態で次世代に継承するとともに文化財の活用とおもてなしによる交流施設として、多くの方に親しまれるよう維持していく。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	11,000	11,000	11,000
				実 績	5,404	7,424	
				達成率	49.1%	67.5%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	3,190 千円		3,240 千円		6,888 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		4,844 千円		4,554 千円		8,244 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		4,844 千円		4,554 千円		8,244 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 地域と利用者をつなぐ交流施設として、また文化遺産を利用したまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性	A	適切である 社会教育法に基づき、博物館法、町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は無料である。
効率性	A	適切である 不具合箇所が生じた場合、早期修繕を行い、国登録有形文化財の建造物を適切に維持している。
達成度	D	目標達成は困難 令和3年度よりも入館者は多かったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて入館者数が伸びず、目標値に達しなかった。

総合評価	拡 充	コロナ後の人流の活発化を見据えて、展示会などの回数を増やすなど、多くの方に喜ばれる事業を展開していく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	多くの方に立ち寄りいただけるよう、事業の企画内容を検討する。

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	今井邦子文学館の維持管理				担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-06-20-01				担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	江戸時代の面影を残す歴史的建造物を適切に維持管理するとともに、女性だけの短歌結社「明日香社」を創始した今井邦子を語り継いでいく短歌・文学の学習施設として、利用者が快適に利用できるように維持管理に努める。						
事業の活動成果	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
(事業の実施によりどのような状態にしたいか)	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	4,000	4,000	4,000
				実 績	1,027	1,562	
				達成率	25.7%	39.1%	

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	2,710 千円		1,939 千円		2,089 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		4,364 千円		3,253 千円		3,445 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円		
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		4,364 千円		3,253 千円		3,445 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	地域における歴史文化の学習施設として、また文化遺産を活かしたまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	社会教育法の精神に基づき、博物館法及び町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。なお、当館の入館料は利用促進の観点から無料としている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	不具合箇所について早期の修繕を図ることで歴史的建造物を適切に維持している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	D 目標達成は 困難	令和3年度よりも入館者は多かったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて入館者数が伸びず、目標値に達しなかった。

総合評価	手法改善	コロナの影響が収まらない状況であったが、短歌がブームになっていることあるので、常設展のリニューアルや、企画展などの開催を検討し、短歌ファンはじめ多くの方に喜ばれる事業を展開していく。
	手法改善の内容	短歌ブームを捉えた展示替えを具体的に検討し実践する。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	手法改善	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	七曜星社蔵の維持管理				担当課名	産業振興課	
(予算書コード)	07-01-06-24-01				担当係名	文化遺産活用係	
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託			
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月		(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	博物館法、町博物館条例						

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	明治期の製糸業興隆の面影を残す歴史的建造物を維持、管理し、良好な状態で次世代へ継承するとともに、まち歩きの休憩施設として親しまれるよう維持していく。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
		無人施設であることから利用者を指標とすることができない		目 標			
				実 績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	21 千円		21 千円		22 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		1,675 千円		1,335 千円		1,378 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円		
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円			
一般財源 (町の負担)		1,675 千円		1,335 千円		1,378 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	地域と利用者を結ぶ交流施設として、また文化遺産を活用したまちづくりの拠点施設として、直営による運営が必要である。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	社会教育法に基づき、博物館法及び町博物館条例に則して、公平、適正に維持管理している。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、 事業が効率的に行われているか	A 適切である	不具合箇所について早期に修繕を図ることで歴史的建造物を適切に維持している。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)		無人施設の維持管理であり、入館者数等の目標値を設定できないので指標設定になじまない。

総合評価	現状維持	下諏訪の製糸業の歴史を語る数少ない建造物の一つであるので、適切な維持管理に今後も努め、次世代に伝えていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔ミュージアムの維持管理				担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-07-22-01				担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)					
根拠法令等の名称	文化財保護法、町埋蔵文化財センター星ヶ塔ミュージアム条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」のガイダンス施設として、指定管理者と連携し適切な維持管理を図るとともに、町民や観光で訪れる多くの方々に、埋蔵文化財や黒曜石を通じた下諏訪の歴史を学習できる場として事業展開を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	利用者数(年間入館者数)	今昔館の入館者の数をカウント	人	目 標	10,000	13,000	10,000
				実 績	9,290	7,646	
達成率	92.9%	58.8%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	3,172 千円		4,332 千円		3,483 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		4,826 千円		5,646 千円		4,839 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円			
一般財源 (町の負担)		4,826 千円		5,646 千円		4,839 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	C	協働を検討すべき 日常的な運営業務については指定管理者制度を導入している。施設の維持管理、展示等の事業開催については町が直営で実施。
公平性	A	適切である 一体的に運営される「しもすわ今昔館」として入館料を徴収。
効率性	A	適切である 指定管理者と町とで効率的に維持管理、運営している。
達成度	C	目標値以下である 令和3年度はコロナの影響で県内学校の学習旅行が多かったが、令和4年度は県外への修学旅行に戻ったため、県内学校の入り込みが減少した。ただし、星ヶ塔遺跡の観光ツアーでの利用があり、目標値の大幅な減少にはならなかった。

総合評価	手法改善	コロナの影響を受けてはいるものの、観光振興局による宣伝効果で星ヶ塔遺跡への関心が全国的に高まっているので、この機会を捉えて、より多くの方に星ヶ塔遺跡を知っていただき、遺跡の魅力を感じ取ってもらえるように、展示解説の更新や、展示品のリニューアルなどを積極的な事業展開を図っていく。
	手法改善の内容	展示の解説に手書き風の親しみやすいものを追加し、展示品も新たな収蔵資料などを加えるリニューアルを図る。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	観光体験プログラムの参加者など来館者の反応や意見を踏まえて、新たな展示手法で展示内容の改善を図る。

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	星ヶ塔遺跡の管理				担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-07-14-01				担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)					
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	国史跡「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を適切に保存し、良好な状態で次世代に継承していくとともに、町観光振興局が開催する観光体験プログラムのツアー見学場所として、参加者が安全に見学できるよう日常的な整備を行う。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
		国指定文化財の保存・管理に係る経費であることから指標設定は困難		目 標			
				実 績			
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	149 千円		120 千円		350 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.30 人	1,971 千円	0.30 人	2,033 千円
事業費合計 C (A+B)		1,803 千円		2,091 千円		2,383 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	62 千円	350 千円		
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円		
一般財源 (町の負担)		1,803 千円		2,029 千円		2,033 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	A	法律で義務付けられている 文化財保護法による史跡星ヶ塔黒曜石原産地遺跡の管理団体は町であるため、町が管理しなくてはならない。
公平性	A	適切である 令和3年度から始まった町観光振興局による観光ツアーが令和4年度も継続され、県内外から多くの方が遺跡に訪れるようになり、全国的な幅広い地域の、幅広い世代の方に遺跡を楽しんでいただいている。
効率性	A	適切である 観光係や観光振興局にも協力を得て、効率的に現地の管理を行っている。
達成度		草刈りや散策路の整備が主な業務内容であることから、目標値の設定が困難であるため、指標設定になじまない。

総合評価	現状維持	観光振興局による遺跡の観光ツアーで、大変多くの方が遺跡を訪れるようになり、遺跡の活用という面では大きな成果が上がってきた。今後も観光ツアーによる活用を継続できるよう、適切な遺跡の保存管理に努め、遺跡の魅力を十分に伝えられるよう維持を図っていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	令和4年度に成果が上がってきたので、日常的な管理を継続していく。

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	柿蔭山房公開活用事業				担当課名	産業振興課
(予算書コード)	07-01-07-16-01				担当係名	文化遺産活用係
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営	委 託		
事業の開始・終了	年 月 ~		年 月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)		
根拠法令等の名称	文化財保護法、町文化財保護条例					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町指定文化財「島木赤彦住居(柿蔭山房)」を適切に維持管理し、良好な状態で次世代に継承するとともに、歴史的建造物を学ぶ施設として、また歌人島木赤彦の業績を伝える学びの施設として公開活用を図る。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	利用者数(年間入館者数)	入館者の人数をカウント	人	目 標	150	150	130
				実 績	140	133	
達成率	93.3%	88.7%					

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	674 千円		703 千円		723 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.25 人	1,654 千円	0.20 人	1,314 千円	0.20 人	1,356 千円
事業費合計 C (A+B)		2,328 千円		2,017 千円		2,079 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円		
		県の負担	千円	千円	千円		
		町の借入	千円	千円	千円		
		その他	千円	千円	千円		
	うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円			
一般財源 (町の負担)		2,328 千円		2,017 千円		2,079 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性 町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割 分担できないか	B 町以外では 行えない	町が所有する指定文化財であるため、町が管理・運営する。
公平性 受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか	A 適切である	町指定文化財として保護を図る一方で、定期的に施設内部を公開し、講座等の事業を行うことで活用を図り、町民や観光客の方々に訪れていただいている。
効率性 予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか	A 適切である	施設内部の公開に当たっては、シルバー人材センターへ開閉及び管理を委託することで業務の効率化を図っている。
達成度 事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由)	C 目標値以下 である	新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、入館者数が伸びなかった。

総合評価	縮 小	令和4年度は土日祝日に公開していたが、入館者数が少なく、今後もプラス方向への伸びが期待できないことから、令和5年度は日曜日だけの公開とする。ただし、見学希望の団体などへの随時公開は可能な限り対応する。
	現状維持	目標値の達成が難しい状況であることから公開日を縮小する。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	目標値の達成が難しい状況であることから公開日を縮小する。